

ひき逃げファミリー

制作陣情報



監督

キム・テシク

作品経歴

- ・「太陽を撃て」(2015)
- ・「赤いバカンス・黒いウェディング」(2011)
- ・「東京タクシー」(2010)
- ・「妻の愛人に会う」(2007)

監督 キム・テシク **プロデューサー** キム・ヒョジョン **制作会社** FILM LINE **シナリオ** オリジナル **作品区分** 実写劇映画 **ジャンル** ヒューマン・コメディ **キャスト** (確定内訳) 未定 **制作形式** デジタル **撮影予定日** 2018.08.01 **直接制作費** (KRW) 600,000,000 **確保済み制作費** (KRW) 150,000,000 **共同制作** 希望形態 共同製作、資金調達、配給 **シナリオ** 2稿 **プロジェクト** **推進経過** ・2016年 日本原作映画のリメイク提案を受ける。・2016年 10月 「東京タクシー2」共同製作のミーティング時、TIFFCOM-Japan Content Showcase を訪問し、日本のプロデューサーから日本原作映画のリメイク権利関係を確認。・原作者と2017年 8月中旬に契約予定。・シナリオ作業の過程でオリジナル映画の設定とは異なる部分が多かったため、協議の末、韓国版シナリオのオリジナル性を認め、映画化の際少額のインセンティブを受け取る方向で合議。・シナリオ作業完了後、共同製作に関する具体的な話し合いを行う予定。

制作会社

会社名 FILM LINE

作品経歴

- ・「You With Me」(監督 Rommel Ricafort、フィリピン/韓国、2017)
- ・「Shun Pong O」(監督 David Thian、マレーシア/韓国、2017)
- ・「太陽を撃て」Heartbreak Hotel (監督 キム・テシク、2015)
- ・「スッキ」Sookhee (監督 ヤン・ジウン、2014)
- ・「Kimmydora and The Temple of Kiyeme」(監督 Joyce Bernal、フィリピン、2012)
- ・「赤いバカンス・黒いウェディング」Red Vacance Black Wedding (監督 パク・チョルス、キム・テシク、2011)
- ・「Aku Ada Kau Ada」(監督 Rahila Ali、マレーシア、2011)
- ・「東京タクシー」Tokyo Taxi (監督 キム・テシク、韓国/日本、2010)
- ・「悪い奴ほどよく眠る」A Good Night Sleep for the Bad (監督 クォン・ヨンチョル、2009)
- ・「妻の愛人に会う」Driving with My Wife's Lover (監督 キム・テシク、2007)
- ・「親分はイエス様」Mission Barabbas (監督 斎藤耕一、日本、2002)

住所 4F, Myungdong Bldg, 16-4, Dosan-daero 30-gil, Gangnam-gu, Seoul, Korea

連絡先 Tel: +82-2-3443-5639 / Email: joyfilm@filmline.co.kr

シナプシス

東京の真っ只中のビルの屋上に、一人の中年男ヒロシが立っている。「この歳で転勤だなんて…?」妻のヨウコは、夫が会社にとって必要ない存在になったことを感じる。この家族のことを話すなら、長女のアツサは職場の上司と不倫中、長男のリクオはイジメで引きこもり、父親は認知症ときている。妻のヨウコは決心する。「行きましょう、韓国へ!!!」家族の意見などお構いなしに妻ヨウコの意思で韓国に移り住む一家。

彼らが住むソウルの外れの住宅団地。ある日、接待ゴルフを終えて帰宅したヒロシは大雨の中、一人の女性を車ではねてしまう。彼は自首を決心するが、妻のヨウコは全て自分に任せてほしいと言って車体のヘコんだ車を家のリビングに置く。次の日、ヨウコは近所の人たちの不審を買わないように、同じ色の中古車を購入して家の前に停めておく。様々な問題に悩まされながらもヨウコはリビングに置いた車の解体に熱を上げる。果たして、異国の地で完全に孤立したひき逃げファミリーの運命はいかに!

制作計画書

作品の企画意図及び製作方向

- 日本原作映画「ひき逃げファミリー」(1992)は、夫がひき逃げ事故を起こした車を家庭内で分解する過程で起こる騒動を通じて、現代の家族が抱えている問題を浮き彫りにするコメディ映画。そこからやや発展させ、解体した家族がまたひとつになる心温まる物語。
- シナリオ初稿を検討した結果、オリジナルのまま韓国でリメイクするにはかなり修正が必要なため、メインキャラの家族を日本人俳優に設定し、韓国に移住してくる日本人家族、その家族の主人がある日車で事故を起こし、それをきっかけに繰り広げられる騒動、という内容に修正。オリジナルの台本を損ねず、更に韓国と日本の文化的衝突を織り交ぜた脚本に仕立て上げることにした。
- 日本原作の権利所有者と8月中旬に契約、共同製作を協議する予定。

資金調達の現況及び計画

企画開発費を調達し、現在シナリオ作業中。今後、日本側と製作委員会を結成、全体制作費の資金調達について協議。

キャスト及びスタッフの構成

- シナリオ作業完了後、キャスト開始。韓国のプロダクションを主軸とした製作スタッフの構成。
- 2017年内にキャストおよび製作スタッフのセットアップ。2018年月中旬クランクインを目標に事前準備。

国内外の配給計画

国内外の投資配給会社と交渉中。韓国版リメイク映画の製作進行と同時に、マレーシア投資製作会社とマレーシア・ブルネイ版リメイク映画について論議。

プロデューサー

キム・ヒョジョン

「You With Me」(フィリピン/韓国、2017)
 「Shun Pong O」(マレーシア/韓国、2017)
 「太陽を撃て」(2015)
 「スッキ」(2014)
 「Kimmydora and The Temple of Kiyeme」(フィリピン、2012)
 「赤いバカンス・黒いウェディング」(2011)
 「Aku Ada Kau Ada」(マレーシア、2011)
 「東京タクシー」(韓国/日本、2010)
 「悪い奴ほどよく眠る」(2009)
 「妻の愛人に会う」(2007)
 「家族シネマ」(1998)

作家

キム・テシク

「太陽を撃て」(2015)
 「赤いバカンス・黒いウェディング」(2011)
 「東京タクシー」(2010)
 「妻の愛人に会う」(2007)

参加にあたってのコメント(その他)

日本の映画市場がやや萎縮状態にあっても潜在力のある見過ごせない市場であることは常に意識しています。現在、共同製作を企画中のマレーシア製作会社とリメイクの原作を探していたところ、日本の心暖まる家族コメディ映画の提案を受け、韓日合作映画としてリメイクを決定しました。「東京タクシー」に引き続き、韓国-日本の共同製作に向けて、まずは完成度の高いシナリオ作成作業に集中しています。翻訳後、日本側と確認

作業を経て、資金調達及び製作委員会の構成を計画しており、併せて、向後東南アジアの製作会社との合作で領域を拡大する計画です。そのため、日本の原作を韓国の観客に合わせて脚色したストーリーに対する現地専門家のモニターリングが非常に重要な出発点になると思います。また、実質的な製作にこぎつけるための日本投資製作会社とのミーティングの機会を得たいと思っています。